

# 吉村明の みつひかり 栽培日誌 3



吉村明  
よしむら あきら

三井化学アグロ㈱  
営業本部マーケティング部  
ハイブリッドライス 種子グループ  
グループリーダー

1962年生まれ。1988年 北海道大学大学院農学研究科修了。同年 三井東圧化学㈱(現三井化学)入社、農業資材開発に従事(北海道工業所勤務)。1996年本社異動後、ハイブリッドライス事業開発を担当になる。2000年に事業ごと三井東圧農業㈱(現三井化学アグロ)に異動し、現在に至る。17年間「みつひかり」をライフワークに、全国を飛び回る。

## 平成26年産種子・注文受付中

現在、平成26年産「みつひかり種子」のご注文を受け付けています。既存の生産者様からのご注文を集約中で、作付面積拡大に伴い、「みつひかり」の栽培を増やしている方が多いようです。また、新しい取り組みも増えてきており、徐々に広がりを見せています。ご用意している種子に限りがありますが、まだ大丈夫です。栽培を迷っていらっしやる農業経営者の皆様、是非、「みつひかり栽培」に挑戦してください。

## 「みつひかり物語」③

### 開発の経緯② くぶつかった壁

「食味・品質に優れたハイブリッドライスの開発」は学術的には画期的な出来事でしたが、事業となると簡単ではありませんでした。ハイブリッドライスの特性から種子生産が大

変難しいなか、委託農家の協力により大量生産体制を整え、2000年の種苗登録を機に、既に400haを超えていた栽培面積を一気に拡大する計画を立てました。

ところが、面積が増えるにつれ、「コメが売れない」「安く買い叩かれる」などの声が聞こえるようになりました。知名度アップのため、新聞・業界紙の取材にも積極的に応じました。さらに資材販売店による積極的な販売活動を行いました。種子販売量は横這い、種子が売れ残り、処分するということもありました。大きな原因は2つあり、①日本に根付いた米流通の仕組みに民間品種が入り込めなかったこと、②生産場面にだけ目が行き消費場面を考えていなかったこと、だと考えています。

そこで、事業が大きな壁にぶつかった02年より、「みつひかり」を消費していただく実需者探しを開始しました。農水省主催の「米の試食会」やさまざまな展示会に積極的に参加

しました。興味は引くのですが、実需者側は「ロットが集まらなければ話にならない」、生産者側は「販売先が確保できなければ栽培する意味がない」と話はまとまりませんでした。また、栽培体系が未確立で、倒伏・低収・米安などの「五重苦」を味わった農家の「みつひかり離れ」が進み、事業は行き詰まってしまいました。そんななか、03年の冷害が「みつひかり」ととつての大きなターニングポイントとなるのです。

## 栽培のポイント③

前回、稲の収量構成要素のお話をしました。表1は「一般品種」穂数型と「みつひかり」穂重型との収量構成要素の比較です。「みつひかり」は穂数が一般品種の3分の2、一穂粒数が約2倍。こうした基本特性をもとにして栽培体系が決まってきます。取りづらい穂数をいかに確保するかが収量アップのポイントです。

「みつひかり」はどのような条件でも「1トン獲り」を狙えるわけではありません。環境条件が整い、リスクを承知で栽培していただける生産者でなければなりません。収量目標の考え方を表2に示しました。早植えできる地域で十分に登熟を待てる

図1: 「みつひかり」の登熟限界

・最高気温: 15°C  
・日平均気温: 10°C

..... 10月31日  
- - - 11月15日  
—— 11月30日  
—— 12月15日

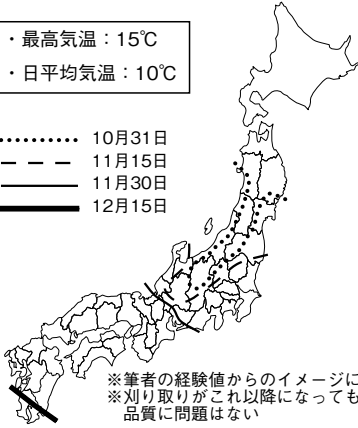


表2: 10a当たりの収量目標の考え方

環境	制限なし (早植え可能で十分に登熟を待てる)	
	栽培リスク	制限あり
あり (挑戦型)	目標: 1t近い ・多肥栽培 ・水管理を徹底	目標: 12~13俵 ・移植時期、収穫時期を考慮 ・施肥量調節
なし (安定型)	目標: 12~13俵 ・一般品種よりやや多めの施肥量 ・幼穂形成期に適度な糞分	目標: 10~11俵 ・条件悪い圃場 ・施肥量調節

表1: 収量構成要素の比較

	みつひかり	一般品種
穂数	300本/m <sup>2</sup>	400本/m <sup>2</sup>
一穂粒数	150粒	80粒
千粒重	21g	21g
登熟歩合	80%	80%
収量 (10a当たり)	750kg (12.5俵)	540kg (9.0俵)

# 穂数をいかに確保するかが収量アップのポイント

## 生産者インタビュー



森田正明さん(父・写真右)  
俊紀さん(子・写真左)

### 「おいしいお米づくり」からの意識改革!

「『みつひかり』を栽培するようになって、稲作に対する意識が変わった。10年栽培してきたが、まだまだ満足していない。収量はまだまだ伸ばせる、と思っており、日々勉強です」

三重県K市で耕作面積25ha、作業受託延べ面積185haを切り盛りする森田俊紀さん。「みつひかり」との出会いは、父正明さん(写真右)が代表であった10年前に遡る。実需者からの要望で、みつひかりの契約栽培の話が舞い込み、果敢にチャレンジされた。当初はマニュアルが未整備で、一般品種と同じ網目で篩ったため、収量は8俵程度しかなかった。これでは栽培する意味がない、とやめていく農家が多かった。そんななか、「食味は二の次、とにかく量を取ってくれ」と、こだわりの「おいしいお米づくり」とは真逆のことを言われ、大きく意識が変わった、とのこと。「みつひかりに取り組んで良かった。作業受託が主で、委託された稲が最優先、自作の7~8割は刈り遅れのない『みつひかり』となり、とても作業が楽になった。つくったお米の消費先が見えるというのは安心できるし、評価を直接聞けるので励みにもなる。実需者との信頼関係が大事で、10年間取り組んできて本当に良かった、と思っている」(正明さん)。3年前より俊紀さんに経営を譲った。俊紀さんは若手の経営者として、全国に人脈を持ち、「みつひかり」を生産者に紹介して、普及にご協力いただいている。

### ■一般品種との栽培方法の比較

	一般品種	みつひかり
元肥量	コシヒカリを除く品種の施肥量	一般品種の2~3割増
栽植密度	50~60株/坪 (株間22~18cm)	60~70株/坪 (株間18~15cm)

### ■みつひかりの作業時期の目安

	早植え	標準	遅植え
播種	3月10日	4月10日	6月5日
田植え	4月15日	5月10日	7月1日
中干し	6月10日	6月30日	8月5日
入水	7月5日	7月25日	8月15日
出穂	7月30日	8月20日	9月10日
刈り取り	9月25日~	10月20日~	11月15日~

協力：  
三井化学アグロ株式会社 営業本部 マーケティング部  
ハイブリッドライス種子グループ  
〒105-7117 東京都港区東新橋1-5-2  
汐留シティセンター  
TEL：03-3573-9869 FAX：03-3573-9891

環境条件、台風による倒伏など怖くないというチャレンジャー農家だけが狙える大きな目標です。

昨今、夏場の高温の影響で「みつひかり」の栽培地域が北に広がってきました。はつきりとしたデータはまだ出てはいませんが、我々のこれまでの経験から、「みつひかり」の登熟には、最高気温15℃、日平均気温10℃が目安になります。これ以下になると品質の劣化はほとんどありませんが、登熟が進まなくなると考えています。その限界温度を図1に示しました。この時期までに登熟が完了するように栽培スケジュール・施肥体系を考慮することが目標収量を得るためには大切です。

## 水稲用除草剤モニター募集キャンペーン



対象製品

### カービー® 1キロ粒剤

有効成分：  
シハロホップブチル…1.8%  
ベンゾピシクロン…2.0%  
MCPB…2.4%

#### 特長

- ノビエをはじめとする一年生雑草、ホタルイ・ミズガヤツリ等の多年生雑草まで効果を示す中期除草剤です。
- SU剤抵抗性雑草のホタルイ類、アゼナ類、コナギ等にも高い効果を発揮します。

●キャンペーン期間：4月末日の到着分まで ●募集人員：5名(決定後に三井化学アグロ(株)よりご連絡いたします)  
●応募方法：住所・氏名・電話番号・栽培面積をご記入の上、下記住所までハガキでご応募ください。  
送付先：〒169-0075 東京都新宿区高田馬場1-34-8 大輝ビル302号「カービーモニター」係

三井化学アグロ株式会社